

Title	わが国石油開発企業のリスク管理に関する一考察
Sub Title	
Author	上野充(Ueno, Mitsuru) 姉川知史
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1326号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1326">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1326</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## わが国石油開発企業のリスク管理に関する一考察

本論文の目的は、石油開発投資におけるリスク認識とリスク回避手段のあり方について検討を行い、最終的には、石油価格変動リスクの持つ意味とその対処法およびコストを踏まえて、石油開発企業のマネジメントにとって有益な石油価格変動リスク管理に関するフレーム・ワークを提供しようとするところにある。

近年の石油価格の変動には極めて激しいものがあり、わずか5ヶ月の間に、原油価格が7ドル/bbl程度も乱高下する時期があるなど、石油開発企業の経営に与える影響は極めて大きいものがある。こうした変動に対して石油開発企業のマネジメントがリスクをどのように認識し、また、どのような対策を取るべきか検討するために、まず、第1章で問題の提起を行なった後、第2章において、石油価格の予測のこれまでの実績と予測可能性について検討を行なっている。次に第3章において石油価格の動きに対する生産者、消費者等の関係者の可能性を検討し、その結果、石油価格の変動についてどのようなパターンが見られるかARIMA (Autoregressive Integrated Moving Average)モデルを使って分析している。そして、さらに第4章において石油価格の変動に対処するために石油開発企業のマネジメントがヘッジングを行う場合、まず根本的な問題として、なぜヘッジングを行なうのかを検討し、代表的なヘッジングの例として原油先物市場を取り上げ、そこでのヘッジングのコストとは何かを分析し、ヘッジングを行う際の基準について提言を行なっている。